

JA全厚連情報



J A長野厚生連 第62回農村医学夏季大学講座を開催

目 次

□ 収益増や費用削減への取組みについて検討 健康管理厚生連活動推進検討会を開催	1
・通信員だより	
Instagram を開設しました（JA北海道厚生連）	2
職場体験学習を開催しました！！（秋田厚生医療センター）	3
秋田県農村医学会第 125 回学術大会（一般財団法人秋田県農村医学会）	4
オープンキャンパス開催（白河厚生総合病院附属高等看護学院）	6
未来の看護師誕生に 一日看護体験開催（茨城西南医療センター病院）	7
関東農村医学会学術総会を開催（相模原協同病院）	8
第 15 回相模原北部緩和医療研究会を開催（相模原協同病院）	9
JA健康・福祉フォーラム 2023 を開催（JA神奈川県厚生連）	10
「第 4 期 TRY!YAMANASHI!実証実験サポート事業」に協力しています（JA山梨厚生連）	11
第 62 回農村医学夏季大学講座を開催しました（JA長野厚生連）	13
2023 年度 介護福祉士第 1 回テクノエイド研修会を開催しました（JA長野厚生連）	16
入職予定者向け看護師国家試験対策講座を開催しました（JA長野厚生連）	17
看護専門学校 2 校でオープンキャンパス開催（JA静岡厚生連静岡厚生病院）	18
鳥インフルエンザ防疫措置救護班に対する感謝状をいただきました（JA愛知厚生連）	19
離島の医療環境向上へ電子カルテ導入に向けた操作訓練を行いました（知多厚生病院附属篠島診療所）	20
4 年ぶり！小学生向け「院内探検ツアー」を開催しました（渥美病院）	21



©よい食プロジェクト

全国厚生農業協同組合連合会
〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル
TEL(03)3212-8000 FAX(03)3212-8008
E-Mail: jigyounei@ja-zenkouren.or.jp
(事業運営支援グループ)
<http://www.ja-zenkouren.or.jp>
編集責任者 中村 純誠



収益増や費用削減への取組みについて検討

健康管理厚生連活動推進検討会を開催

本会は7月28日、8月7日の両日、健康管理厚生連活動推進検討会（収益増グループ・費用削減グループ）をWEBで開催し、収益増グループは10厚生連から19名、費用削減グループは3厚生連3名が参加した。

本検討会は、健康増進活動の課題を解決することを目的に、対応策の立案・評価等を行うための取組みとして令和3年度から開催している。

これまでの実施方法やテーマ設定は、本会理事会の補完的役割をなす事業企画委員会において提案されており、令和3年度、4年度においては「受診者拡大への取組み」をテーマとして対応策に取り組み、その評価を行うこととしているが、その取組みの中には、マンパワー不足等により受診者確保策が実施できないとの根本的な意見も出されているところである。

本年度は、「収益増」と「費用削減」をテーマにグループ分けを行い実施した。各厚生連からは、収益増・費用削減に向けた取組み・課題等の報告が行われ、意見交換では、報告された取組みに対して他厚生連から情報提供等があった。

また、今年度についても、社会福祉法人 聖隷福祉事業団 保険事業部総合企画室 池田室長に参加いただき、外部の視点からのアドバイス・意見をいただいた。参加者からは、「池田アドバイザーが各県の取組みに対してアドバイスされた内容が参考になった。」「各施設で様々な取り組みを行っており、非常に参考になった。今後検討を重ね、効果が期待できる取り組みを実践していきたいと思う。」等の感想が寄せられた。

次回は、12月8日、15日の両日に開催を予定しており、今回のアドバイスを踏まえた取組状況や検討の方向性について、意見交換を行う。

なお、本検討会の取組みについては、規模や機能等が異なるそれぞれの厚生連が有する課題のうち、単年度で解消することが困難なものがあることも認識しており、本会としては、本検討会の今後の企画・運営の見直し・検討が必要と考えている。



Instagram を開設しました

(JA北海道厚生連)

この度北海道厚生連（西本護・代表理事会長）では、本会の設立日である8月15日にInstagramを開設しました。

今までも広報誌・X (Twitter) と広報活動を行ってまいりましたが、新たな広報の場を開設することで、より広く情報をお届けすることを目的としております。

各媒体の特性を活かしながら運用してまいりますので、是非フォロー登録をよろしくお願いたします

< JA北海道厚生連 Instagram URL >

https://www.instagram.com/ja_hkouseiren/



JA北海道厚生連 Instagram QRコード

(三原真樹通信員)

職場体験学習を開催しました！！

(JA秋田厚生連・秋田厚生医療センター)

秋田厚生医療センター（柴田聡病院長）では、7月7日、地元中学生を対象とした「職場体験」を行いました。今回、当院を選んだ理由は、「幼少期、お世話になった時の看護師の対応が優しくて、興味を持ったから。」「家族を亡くしたことをきっかけに、人を助ける職業に就きたいと思ったから。」など、今後の将来を見据えたしっかりとした思いからでした。

体験の内容は、初めに当院看護副部長から病院の概況について説明を行い、その後、午前中は各病棟へ移動し、病棟スタッフと一緒にベッドサイドへ行き、患者さんのケアの見学、車椅子介助や移送体験、昼食の配膳等を行っていただきました。初めは緊張した表情でしたが、患者さんから「ありがとう」の言葉をもらい、次第に笑顔が見られました。また、一生懸命頑張っている学生たちの姿を見て、ニコニコ嬉しそうにしていた患者さんの姿も印象的でした。

午後からの質疑応答では、医療職の魅力や資格を取る上で必要なことなど、将来に向けた積極的な質問が聞かれ、心強く感じました。最後に、参加した学生からは、「看護師の仕事は患者さんと関わる時に寄り添うことが大切だと感じ、より看護師になりたいという気持ちが強くなった」、「病院では看護師以外にも沢山の職種の人が働いていることを知ることができたので、将来の参考にしたい」などの感想が聞かれ、病院のことを知ってもらい、身近に感じてもらえたのではないかと思います。

人口減少が進む中、今回当院を選んでくれた生徒の中から、未来の秋田県の医療を担う人材が一人でも多く生まれてくれることを心から願っています。

(斎藤美翔通信員)



職場体験学習の様子

秋田県農村医学会第125回学術大会 ～学術研究を通して地域医療・保健・福祉を考える～

(JA秋田厚生連・一般財団法人秋田県農村医学会)

7月8日、秋田県JAビルにおいて、秋田県農村医学会第125回学術大会(学術大会会長 波多野善明 湖東厚生病院院長)を開催しました。

県内のコロナ禍がようやく落ち着きを見せ、私たちの生活も以前の日常に戻りつつありますが、残念ながら収束には至っておりません。一部地域においては、医療が逼迫し始めており、新型コロナ第9波の感染拡大に備えなければならない状況にあります。このような中、将来の医療を考える上で、今回の学術大会は大変良い機会となりました。



学術大会開催の様子

学術大会には、秋田県厚生連の職員、県内医療関係者、一般会員等、約440名が参加し、医療・保健・福祉の質の向上を目的に、幅広い分野から研究発表が行われ、メイン会場の大ホールでは、研究班報告や特別講演を行うとともに、60題の会員講演(一般演題)はメイン会場を含む4会場に分かれて実施しました。

研究班報告では、秋田厚生医療センター・副院長の星野孝男先生から『電子カルテを用いたウイルス性肝炎診療システム構築に関する共同研究』をテーマに講演していただきました。B型、C型肝炎の適切な治療のあり方や、電子カルテシステムを用いた取り組みなどを報告いただきました。



特別講演の様子

特別講演では、秋田大学大学院医学系研究科 総合診療・検査診断学講座教授の植木重治先生から「秋田の『総合診療』の界隈と今後」をテーマに講演していただきました。会場は、ほぼ満席の盛況の中、「総合診療とは何か」、「総合診療の役割とは何か」など、総合診療について多岐にわたる内容をご紹介いただきました。また、医師育成についても力を入れており、働く医師みんなが総合的な診療実践ができ、そこに暮らす人たちの健康課題が解決されることを目標に、総合診療医の重要性をお話いただきました。質疑応答の際も活発な意見交換が行われ、多くの参加者が真剣に聞き入る姿勢に関心の高さを感じました。

最後に、学術大会にご参加いただいた皆様に深く感謝を申し上げます。

(斎藤美翔通信員)

オープンキャンパス開催

(JA福島厚生連・白河厚生総合病院附属高等看護学院)

JA福島厚生連白河厚生総合病院附属高等看護学院(前原和平学院長)では、7月23日にオープンキャンパスを開催し、高校生とその保護者等約70名の参加を得て終了しました。看護学院在校生が参加した開催は4年ぶりとなります。

前原和平学院長のあいさつに続き、教員より学校の紹介や令和6年度入試概要等について説明が行われました。その後、学生よりクラスの紹介、心に残るエピソード発表、サークル紹介、校歌の披露、看護学生の1日の紹介などがありました。看護技術体験では、看護学生が学ぶ注射技術体験や新生児の沐浴技術体験等を行いました。進学相談会においては、学院の学生達から熱心に話を聞く姿が見られました。

参加者からは、「今日のオープンキャンパスに参加して、実際の学校の雰囲気味わうことができた。先輩からたくさん話を聞いてよかった。」「在校生がとても明るい雰囲気で、信頼関係があると感じた。受験に向けて頑張りたい。」などの声が聞かれました。



注射の手技を体験する高校生



新生児の沐浴体験する高校生

(佐藤剛通信員)

未来の看護師誕生に 一日看護体験開催

(JA茨城県厚生連・茨城西南医療センター病院)

JA茨城県厚生連(長谷川博史・代表理事理事長)が運営する茨城西南医療センター病院(野村明広病院長)では、7月26日、8月3日に県内の高校生を対象とした一日看護体験を行いました。茨城県看護協会と連携し、体験を通じて看護の心にふれ、看護師という職業に関心を持ってもらうことを目的とした活動であります。

新型コロナウイルスの感染拡大によって中止となるケースが続いておりましたが、現在では感染予防対策を図りつつ、以前と同じように行えるようになりました。

体験では、オリエンテーションで看護師の果たす役割などを説明し、病院内部の見学、車いすやストレッチャーの使い方、血圧測定、ベッドでの介助方法などを学び、実際に入院している患者さんと触れ合う機会を持つことができました。

参加した高校生からは「患者さんとの関わりの中でお礼を言われた時、看護師としてのやりがいを実感することができた」、「看護師という職業について考える大変よい機会だった」などの声が聞かれました。

今後も、「人の心」にふれることのできるやりがいのある仕事として看護職の魅力を伝え、未来の看護師の誕生に繋げられるように努めてまいります。



血圧を測定する高校生

(酒井一彦通信員)

関東農村医学会学術総会を開催

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

7月15日に相模原協同病院（渋谷明隆病院長）は、第81回関東農村医学会学術総会を開催しました。

今回のテーマは、地域に選ばれる医療と人「厚生連の働き方改革とは」ということで、「コロナ後、働き方改革後の医療機関の人材確保」の特別講演や、「職員満足度の向上を目指して」のシンポジウムが行われました。一般演題では、各部門から全部で28演題エントリーし、そのうち相模原協同病院から診療部の稲葉拓哉さん、医療技術部の矢島央登さん、成田大地さん、事務部の今野亜矢さん、増田佳一さんの5名が優秀演題賞を受賞しました。



WEB開催の様子

(生沼貴彦通信員)

第15回相模原北部緩和医療研究会を開催

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

7月15日に相模原協同病院（渋谷明隆病院長）は、第15回相模原北部緩和医療研究会を開催しました。今年度もWeb上での講演会形式とさせていただきました。

今回は「在宅診療におけるがん症状マネジメントの実際」と題して、当院緩和ケア科林経人先生からがん患者さんの症状に関する総論を、みその生活支援クリニックの小野沢滋先生からは各論をそれぞれご講演いただきました。

とくに小野沢先生の各論ではがんの訪問診療におけるリアルな内容を詳しく伺うことができました。訪問する患者数を敢えて抑えながら、ときには難しい症状に長時間寄り添いながら治療にあたる様子を具体的にご説明いただきました。



WEB講演会の様子

(生沼貴彦通信員)

JA健康・福祉フォーラム2023を開催

(JA神奈川県厚生連)

JA神奈川県厚生連（高野靖悟・代表理事理事長）は、7月12日、「JA健康・福祉フォーラム2023」を開催しました。このフォーラムは、JAグループ神奈川が取り組んでいる「JA健康寿命100歳プロジェクト」活動の一環として毎年開催しておりますが、3年ぶりに実開催いたしました。

当日は平本光男会長からの開会の挨拶にはじまり、その後、一般社団法人日本発酵文化協会 上席講師、日本発酵文化株式会社 常務取締役 藤本倫子さんを講師にお迎えし「発酵食品を取り入れて健康生活」と題し講演いただきました。続いて、井關治和副理事長より「生活習慣を見直す～ある心筋梗塞患者の話から～」と題し講演が行われました。

発酵食品に関する身近なアドバイスや生活習慣の具体的な見直し方法に熱心にメモを取る姿が見られ、参加者からも好評でした。最後に高野理事長から閉会の挨拶があり、大盛況のうちにフォーラムは終了しました。



講演の様子

(生沼貴彦通信員)

「第4期 TRY!YAMANASHI!実証実験サポート事業」に 協力しています

(JA山梨厚生連)

JA山梨厚生連(中澤昭・代表理事会長)では、山梨県が推進する「第4期 TRY!YAMANASHI!実証実験サポート事業」の一環として実施されている、「胸部X線写真から骨の状態を解析するAI医療機器」の実証実験に協力しています。

●実証実験の概要(県・iSurgery株式会社のプレスリリースより抜粋)

<目的>

企業健診受診者に対する、胸部X線写真による骨評価AI検査の需要
および医学的有用性の評価

<期間>

2023年7月～2023年9月

<実施場所>

山梨県厚生連健康管理センター
甲府市医師会 健診・検査センター

<医療機器>

2023年4月18日に薬事認可を受けたプログラム医療機器「医用画像解析ソフトウェア Chest Bone Indicator」※骨粗鬆症の診断と治療の際には、「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン」に則り、専門外来受診およびDXA法による精密検査が必要です。

<実施の流れ>

iSurgeryが開発したAI医療機器は健診施設に導入され、骨評価AI検査を企業健診受診者へ提供します。受診者は希望に応じて、法定健診で撮影した胸部X線写真を二次利用し、自身の骨の状態を評価することが可能です。骨の状態が低下していると判断された場合、受診者は整形外科などの専門外来を受診し、骨粗鬆症の評価や必要に応じた治療介入を受けることができます。

本実証実験では、検査選択率や要精検率、精密検査結果に基づく有病率、そしてこれらをもとに試算される将来的な医療費削減効果が検証項目となります。これらの検証結果は学術的な記録としてまとめられ、学会発表や論文発表を通じて全世界に向けて発信される予定です。

<期待される効果>

最先端技術やサービスを有するスタートアップ企業に対し、全国トップレベルとなる補助率3/4、最大750万円の経費を支援するとともに、山梨県全域を実証実験のフィールドとして、産学官金連携のオール山梨体制で伴走支援する社会実証プロジェクトです。

山梨県ではリニア開業を機に、国内外の皆様の目的地として選ばれるため、令和2年3月に策定した「リニアやまなしビジョン」で目指す姿として、テストベッドを突破口に最先端技術で未来を創るオープンプラットフォーム山梨を掲げています。

第4期TRY!YAMANASHI!実証実験サポート事業

**企業健診における
骨粗鬆症早期発見の実証実験を開始
: 胸部X線写真による骨評価AIを活用**

山梨県厚生連
YAMANASHI KOSHIEN

一般社団法人甲府市医師会
健診・検査センター

山梨大学
UNIVERSITY OF YAMANASHI

JA 山梨厚生連 HP

詳細につきましては、県の公式サイトをご覧ください

https://www.pref.yamanashi.jp/try_yamanashi/support.html

(志村直樹通信員)

第62回農村医学夏季大学講座を開催しました

(JA長野厚生連)

JA長野厚生連（洞和彦・代表理事理事長）は、第62回農村医学夏季大学講座を佐久総合病院農村保健教育ホールにて、7月21日、22日の両日で開催しました。

メインテーマに「地域医療をともにつくる」、サブテーマに「医師の働き方改革と持続可能な医療をみんなで考える」を掲げ、WEB受講にも対応したハイブリッド形式にて開催し、現地受講者219名、WEB受講者161名の計380名に受講いただきました。



若月賞授賞式の様子(左から長野氏、稲葉氏、スミス氏)

1日目には、第31回若月賞授賞式が行われ、アイリーン・美緒子・スミス氏（環境NGOグリーン・アクション代表）、稲葉 剛氏（一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事）、長野 敏宏氏（公益財団法人正光会御荘診療所長、特定非営利活動法人ハートinハートなんぐん市場理事・企画営業南宇和心の健康を考える会 会長）の3名が若月賞を受賞されました。

稲葉氏からは「生活困窮者支援の現場から」、長野氏からは「これからの精神医療保健福祉のあり方について思うこと～愛媛県愛南町における精神科医療の構造変革に取り組んで～」の若月賞受賞講演が行われました。また、加藤 琢真氏（厚生労働省保険局医療課課長補佐）には「働き方改革と今後の医療提供体制」と題しご講演いただき、全3講演にて1日目を締めくくりました。



シンポジウムの様子(左から加藤氏、鄭氏、柳田氏、山口氏)

2日目は、スミス氏から「私が頂いたこと、見たこと、これからすること」の若月賞受賞講演、山口 育子氏（認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML理事長）から「患者の理解が不可欠な医師の働き方改革とチーム医療」と題しご講演いただきました。また、本講座のメインテーマである「地域医療をともにつくる～医師の働き方改革と持続可能な医療をみんなで考える～」と題し、加藤氏、山口氏、鄭 真徳氏（佐久総合病院副院長兼診療部長）、柳田 清二氏（佐久広域連合長）の4名によるシンポジウムが行われました。サブテーマに対し、講師、受講者を交えた意見交換が行われ、2日間にわたる講座を締めくくりました。



会場の様子

本講座は数年の間、感染症拡大の影響により中止や規模の縮小を余儀なくされましたが、本年は現地受講数の枠を去年の倍に広げた開催となりました。皆様のご協力により成功裡に終了しましたことをここに感謝申し上げます。

また、WEB受講に対応したハイブリッド形式を継続することで、これまで以上に多くの方に受講いただける体制が整備されました。歴史ある本講座をより盛り上げていけることを喜ばしく思っております。

各分野の第一線で活躍する講師先生方による講演、シンポジウムを通じ、農村医学の原点や社会的処方に触れることができる貴重な講座となりました。

(山岸愛通信員)

2023年度 介護福祉士第1回テクノエイド研修会を開催しました

(JA長野厚生連)

JA長野厚生連（洞和彦・代表理事理事長）は、7月25日～26日の2日間、外部講師に日本ノーリフト協会代表理事の保田淳子先生をお招きして、2023年度の介護福祉士第1回テクノエイド研修会を開催しました。

テクノエイド研修会は、職員のレベルにより中級・上級に分かれての研修となり、患者さんや利用者さんの自立支援、介護者の負担軽減につなげるための福祉用具の安全かつ効果的な活用技術の習得を目的に、また個々の状況に合わせたアセスメントができるよう事例検討を通じ、指導者としての情報共有と活用、新たな福祉用具の導入検討につなげることを目的とした研修です。参加者は、研修で学んだ知識・スキルを活かし、それぞれの職場での課題を抽出し、1年を通して改革に取り組みます。

介護ベッドを用いての実践を交えた研修会となり、参加した介護福祉士は新たな発見、課題が見いだせました。この研修を通じて、介護職の質の向上、さらなる視野の拡大と次世代リーダーへの成長を期待しています。



中級研修会の様子



上級研修会の様子

(山岸愛通信員)

入職予定者向け看護師国家試験対策講座を開催しました

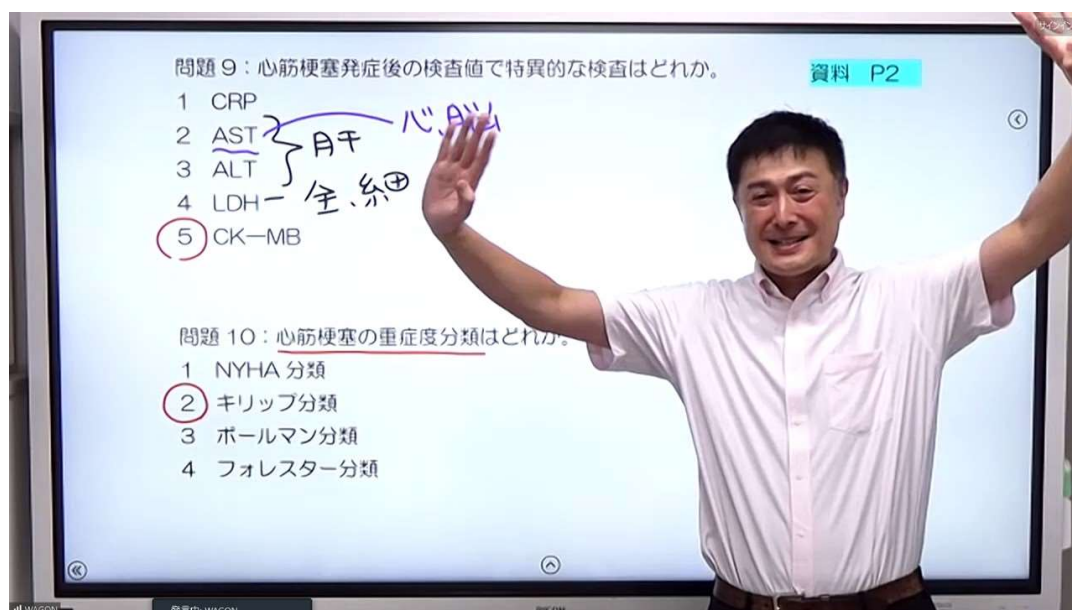
(JA長野厚生連)

JA長野厚生連(洞和彦・代表理事理事長)は8月8日に、看護師国家試験対策講座をオンライン形式(Zoom)で開催しました。対象者は来年度4月に本会に入職予定の新卒者および奨学金貸与者で、70名の参加がありました。この講座は、国家試験合格に向けた組織的学習支援の一つとして、今年度新たに企画・開催しました。

講師は株式会社WAGON(看護師国家試験対策予備校)から小坂 宣靖先生をお招きし、循環器をテーマに国試の出題傾向やその解説について講義いただき理解を深めました。参加者からは「講義がとてもわかりやすく、今後の国試対策に活かせるものだった」「苦手な分野の循環器をわかりやすく解説していただき、理解が深まった」など有意義な時間であったという声が多く聞かれました。

国家試験合格に向けて、より一層の学習への取り組みを期待するとともに、4月から厚生連の仲間として一緒に働けることを楽しみにしています。

JA長野厚生連では、今後も入職予定者及び奨学金貸与者に向けて学習支援を実施していく予定です。



看護師国家試験対策講座開催の様子

(山岸愛通信員)

看護専門学校2校でオープンキャンパス開催

(JA静岡厚生連・JA静岡厚生連静岡厚生病院)

JA静岡厚生連(荒田庄治・代表理事理事長)は8月3日から5日にかけて厚生連看護専門学校(藤田美保子学校長)とするが看護専門学校(中田昭子学校長)でオープンキャンパスを開催しました。

看護師を目指す高校生など、3日間合わせて140人が参加しました。

学生達は看護師に求められる力や学校の紹介、在校生の体験談を聞いた後、グループに分かれて模擬授業や在校生の指導を受けながら、血圧測定や沐浴などを体験しました。

オープンキャンパス中は在校生へ自分の知りたいことなど、積極的に先輩に質問する姿が見られました。

オープンキャンパスは、看護の仕事に興味がある学生たちに仕事のイメージを持ってもらい、進路の決定に役立ててもらおう目的で開催しています。



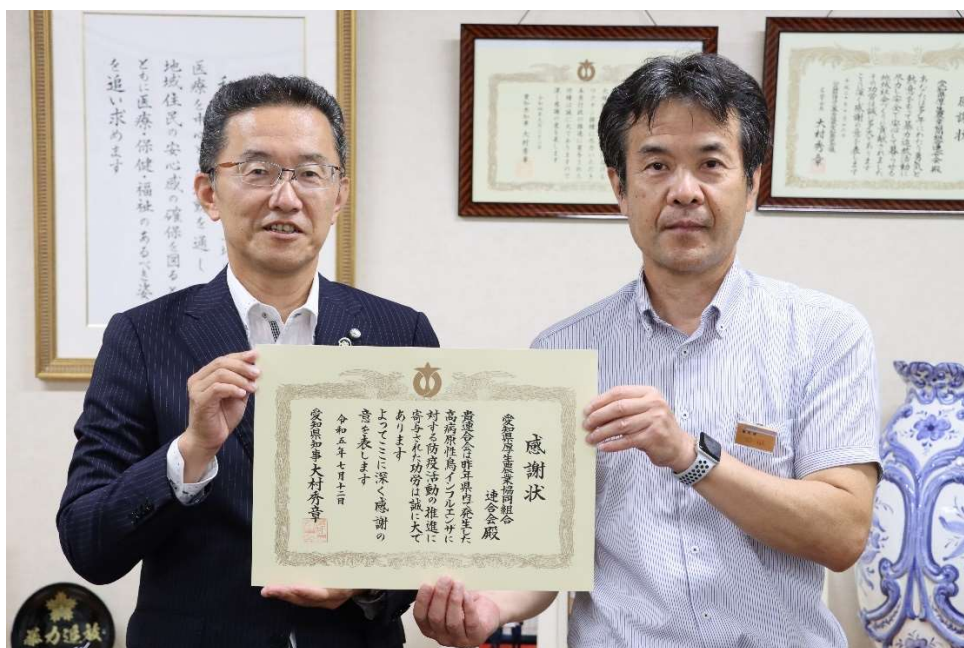
看護学校オープンキャンパス開催の様子

(望月俊宏通信員)

鳥インフルエンザ防疫措置救護班に対する 感謝状をいただきました

(JA愛知厚生連)

JA愛知厚生連（宇野修二・代表理事理事長）では、7月13日、豊橋市の養鶏場で2022年12月に発生した高病原性鳥インフルエンザの防疫作業に協力したとして、愛知県農業水産局より感謝状をいただきました。本会は12月7日から12日の期間で看護師・事務員計8名を派遣し、救護活動を行いました。



作業は昼夜を問わず行われ、救護班として切創や体調不良者の救護にあたりました

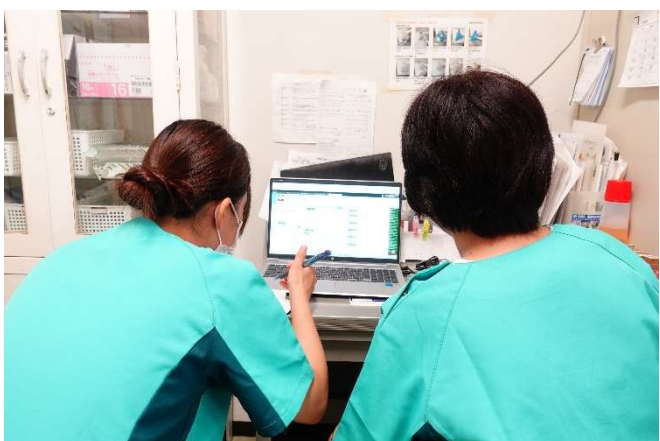
(井桁千聡通信員)

離島の医療環境向上へ 電子カルテ導入に向けた操作訓練を行いました

(JA愛知厚生連・知多厚生病院附属篠島診療所)

知多厚生病院附属篠島診療所（保里恵一診療所長）では、8月1日よりクラウド型の電子カルテ運用を開始しました。

7月26日は篠島診療所にて診療所長の保里医師や看護師・事務員らの操作訓練を行いました。電子カルテ化によって薬の処方や会計時の患者待ち時間が短縮されます。また、島民が知多厚生病院を受診する際、患者情報が閲覧できるため救急搬送時の情報収集もスムーズとなります。



診療所スタッフの操作訓練の様子

(井桁千聡通信員)

4年ぶり！ 小学生向け「院内探検ツアー」を開催しました

(JA愛知厚生連・渥美病院)

渥美病院(吉田昌弘病院長)では8月5日に病院を身近に感じてもらうこと地域の方々と交流することを目的とした「院内探検ツアー」を開催しました。

当日は田原市内の15組の親子が参加し、院内を見学しながら手術の模擬体験や電気メス体験・薬剤師体験などを実施しました。院内探検ツアーは平成23年より毎年開催してきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により4年ぶりの開催となりました。本イベントを通して渥美病院を身近に感じていただくとともに、病院の仕事に興味をもっていただき将来医療業界へ就職したいと思ってくれるお子さんが一人でも多くなることを願っています。



手術の模擬体験(担当:手術室看護師)



顕微鏡体験(担当:臨床検査技師)



MRIの磁力体験(担当:診療放射線技師)



薬の飲み方チェック(担当:薬剤師)



電気メス体験(担当:臨床工学技士)



内視鏡体験(担当:臨床工学技士)

(井桁千聡通信員)